



2021年度 国立音楽大学附属高等学校音楽科 ガイド

1. 本校について

・自由・自主・自律

本校の教育理念は「自由」「自主」「自律」。多様な価値観を受け入れ、人と人との結びつきを大切にする校風の中で生徒たちは他者を思いやり、行動に責任を持った上で自由に自己表現をすることを日々考えています。制服がないのも自己表現の一環としてとらえています。また、個々の専攻を最優先にしながらも、過度な競争意識や個人主義に陥らないのも本校の特長です。生徒たちは自由の意味を考えながらのびのびと学校生活を送っています。

・アンサンブルのくにたち

アンサンブルはお互いの演奏を聴き合う、認め合う、意見を出し合うことではじめて成立します。アンサンブルにおいて自己主張が強すぎてうまくいきません。かといって主張がなければ新しいものは生まれません。時にはぶつかり合うことで全く新しい発想が生まれる場合もあります。アンサンブルによって「人間力」を養うための協調性、主体性、コミュニケーション能力、創造力、発想力が身につきます。KUNION では日常の中にアンサンブルを体験する機会が多く、社会に貢献する人材を育てるために役立っています。

2. 時程

KUNION は1年間を2つに分ける二期制の学校です。学科の定期試験は前期試験・後期中間試験・後期期末試験の年3回実施します。また実技試験は前期・後期の2回行います。また、週5日制の学校で、土日はお休みです。土曜日は自宅等での実技の練習に充てることを推奨しています。

生徒の登校時間は午前7時50分からとし、午前8時45分までに教室に入ることとしています。朝の月極レッスン室は7時50分から使用できます。遠方から通学する生徒も多いため、1時間目開始時刻は遅めにしています。最終下校は午後6時15分です。

第1時限	8:50 ~ 9:40
第2時限	9:50 ~ 10:40
第3時限	10:50 ~ 11:40
第4時限	11:50 ~ 12:40
昼休み	12:40 ~ 13:25
第5時限	13:25 ~ 14:15
第6時限	14:25 ~ 15:15
第7時限	15:25 ~ 16:15

3. カリキュラムと時間割

(1) 2021年度カリキュラム

※2022年度より新カリキュラム!

1年次																												
必修科目	国語総合	世界史A	日本史A	数学I	科学と人間生活	体育	保健	コミュニケーション英語I	総合的な学習の時間	必修科目 音楽	音楽理論	ソルフェージュ	基礎ソルフェージュ	応用ソルフェージュ	合唱	合奏※	専修音楽	副科ピアノ※	選択科目 一般・音楽	英語表現I	英語会話	ドイツ語I	演奏演習音楽理論	ソルフェージュ基礎実習	音楽基礎	副科チェロ・コントラバス	選択レッスン基礎	選択レッスン上級
(20単位)	4	2	2	3	2	2	1	3	1	(8~11単位)	2	2		いずれか1	2	2	1	1	(0~3単位)	1	1	1	2	1	1	1	1	1

2年次																																
必修科目	現代社会	生物基礎	体育	保健	家庭基礎	総合的な学習の時間	必修科目 音楽	音楽理論	鑑賞研究	ソルフェージュ	合唱	合奏※	専修音楽	副科ピアノ※	選択科目 一般・音楽	現代文I	古典I	世界史研究	応用数学	選択理科A	コミュニケーション英語II	英語表現I	英語会話	ドイツ語II	イタリア語I	演奏演習音楽理論	基礎ソルフェージュ	応用ソルフェージュ	ソルフェージュ基礎実習	副科声楽	副科チェロ・コントラバス	選択レッスン上級
(11単位)	2	2	3	1	2	1	(9~12単位)	3	1	2	2	2	1	1	(0~10単位)	2	2	2	2	1	4	1	1	1	1	2		いずれか1	1	1	1	1

3年次																																			
必修科目	体育	社会と情報	必修科目 音楽	音楽理論	音楽史	演奏研究	ソルフェージュ	合奏※	専修音楽	副科ピアノ※	選択科目 一般・音楽	現代文II	古典II	日本史研究	歴史探求	音楽で学ぶ社会	応用数学	選択理科B	選択理科C	英語総合	英語会話	ドイツ語III	イタリア語II	選択家庭	情報表現	演奏演習音楽理論	音楽理論研究	基礎ソルフェージュ	応用ソルフェージュ	ソルフェージュ基礎実習	合唱	副科声楽	副科チェロ・コントラバス	アンサンブル上級	選択レッスン上級
(4単位)	2	2	(8~11単位)	2	2	1	2	2	1	1	(0~12単位)	2	2	2	1	1	1	1	1	3	1	1	1	2	2	2	2		いずれか1	1	2	1	1	1	1

※は専攻により必修となる科目 ・カリキュラムは変更する可能性があります

(2) 時間割例

【1年フルート専攻】

	月	火	水	木	金
第1時限 (8:50~9:40)	音楽理論	保健	世界史A	数学Ⅰ	ソルフェージュ
第2時限 (9:50~10:40)		数学Ⅰ	コミュニケーション 英語Ⅰ	日本史A	日本史A
第3時限 (10:50~11:40)	国語総合	体育	数学Ⅰ	国語総合	合唱
第4時限 (11:50~12:40)	世界史A	コミュニケーション 英語Ⅰ	ソルフェージュ	科学と人間生活	
昼休み					
第5時限 (13:25~16:15)	コミュニケーション 英語Ⅰ	国語総合	体育	基礎ソルフェージュ	科学と人間生活
第6時限 (14:25~15:15)	合奏	英語表現Ⅰ	演奏演習 音楽理論	専修音楽 (実技専攻レッスン)	国語総合
第7時限 (15:25~16:15)	(オーケストラ)	副科ピアノ (15分)			HR

・背景がピンクの科目は選択科目です。

背景がピンクで授業名の入っていない時間は、自由選択科目の授業です。

・空欄は空き時間です。空き時間は、宿題や予習をしながら生徒ホールで過ごしたり、図書館の視聴室で演奏の聴き比べに時間を使ったりしています。

同じ作品でも出版社や校訂者によって楽譜に違いがあります。そんな研究も演奏を学んでいく上では大切な時間です。

・3年生は優先的に空き時間にレッスン室を借りることができます。レッスン室で個人練習や伴奏者との合わせ練習、アンサンブルの練習をする生徒も多いです。

・3年生の中には国立音楽大学の特別聴講生に選ばれて、空き時間に大学の授業を受けている生徒もいます。

【2年ピアノ専攻】

	月	火	水	木	金
第1時限 (8:50~9:40)	コミュニケーション 英語Ⅱ	専修音楽 (専攻実技レッスン)		鑑賞研究	コミュニケーション 英語Ⅱ
第2時限 (9:50~10:40)	体育	応用数学	ダンス(体育)	音楽理論	ソルフェージュ
第3時限 (10:50~11:40)	現代社会	コミュニケーション 英語Ⅱ	ソルフェージュ		合唱
第4時限 (11:50~12:40)	保健	家庭基礎	現代社会	生物基礎	
昼休み					
第5時限 (13:25~16:15)	音楽理論		演奏演習 音楽理論	体育	生物基礎
第6時限 (14:25~15:15)		応用ソルフェージュ		コミュニケーション 英語Ⅱ	家庭基礎
第7時限 (15:25~16:15)			ドイツ語Ⅱ	応用数学	HR

【3年声楽専攻】

	月	火	水	木	金
第1時限 (8:50~9:40)			演奏研究		
第2時限 (9:50~10:40)	古典Ⅱ	古典Ⅱ	体育		
第3時限 (10:50~11:40)	音楽理論	現代文Ⅱ	音楽史	体育	合唱
第4時限 (11:50~12:40)		副科ピアノ (15分)		ソルフェージュ	
昼休み					
第5時限 (13:25~16:15)	社会と情報		ドイツ語Ⅲ	応用ソルフェージュ	ソルフェージュ
第6時限 (14:25~15:15)	専修音楽 (専攻実技レッスン)	イタリア語Ⅱ	現代文Ⅱ	演奏演習 音楽理論	社会と情報
第7時限 (15:25~16:15)					HR

4. 音楽科の特徴

「音楽の基本的なキマリ」を読み解き、訓練したものを演奏に**つなげる**ために

【音楽理論とソルフェージュ】

時間割上では音楽理論、ソルフェージュという名前になっていますが、双方の授業と専修音楽（レッスン）は相互の関係にあると考えています。音楽に関する授業は、その全てが自身の演奏につなげるための基礎演習となります。その基礎演習部分の経験年数などの違いや、実技で表現することと理解する速度のアンバランスな面については「習熟度別授業」の体制で対応しています。

授業では、まず西洋音楽のバロック・古典時代の作品を中心に学びます。3年間を通して、調性や構造が明確なものから複雑なものへと進んでいきます。また授業担当者のオリジナル作品に触れる機会も多くあります。音楽理論とソルフェージュで培った力が、それぞれの演奏表現へとつながっていくような学びが用意されています。

・音楽理論

〈音楽理論 ⇒ 古典的和声学の基礎を学ぶことから始めます〉

～音楽の設計図（和声や楽曲構造）の見方・書き方の習得を通して作品への理解を深める～
→楽譜に書かれた「作曲家からのメッセージ」を読み解き演奏につなげることを目指します。

1. 正確さと限られた時間の中で完成度の高い読譜・記譜を身に付ける。
2. 楽曲分析を通して、楽曲に対する多角的なアプローチを学ぶ。
3. 理論の裏付けに基づく演奏表現を主体的に作り上げるスキルを高める。

〈習熟度別に4段階のグレードで展開〉

音楽理論は1学年を4つに分けて行っています（クラス編成試験は前期末試験、後期中間・期末試験の3回実施）
ちなみに単位数（1週の授業時間数のこと）と学年毎の時間数と主な学習テーマは下記のとおりです。

習得単位数（1週の授業時間数）	主な学習テーマ（音楽の形式・創作含む）
1年生は2単位（2時間）	楽典の確認、音楽の骨組みから和声の基礎を学ぶ （2・3部形式）
2年生は3単位 （2時間続きの日と1時間授業の日）	転位音、転調を含む和声の習得と対位法的作品の楽曲分析 （ソナタ形式とインヴェンション）
3年生は2単位（2時間）	対位法的作品・フーガの主要提示部の創作と3年間の和声のまとめ

4つのグレードクラスは学ぶ内容に差異はありません。グレードが上のクラスになるにつれ、短い時間内での反応が求められたり、応用的な内容を追究したりしていくこととなります。単元・テーマによって、一人1台のクラビノーバが使用できる音楽室と通常の音楽室の両方を使用しています。聴取・歌唱・演奏等を交えながら、理論と実践の双方から学ぶことができます。

・ソルフェージュ

「グレードソルフェージュ」 *クラスは聴音の習熟度により前期・後期入れ替え*

聴音（書き取り）の習熟度別に、1学年を4つに分けて行っています。

音楽理論と同様、4つのグレードクラスは学ぶ内容に差異はありません。そのグレードに合った学習方法でじっくりと学ぶことができます。週に2時間の授業は一人1台のクラビノーバ教室と通常の音楽室を使います。

〈演習内容と効果〉

聴音（書き取り）	音楽を聴き取り、限られた時間内で正確に記譜します。 →読譜（譜読み）が短縮されていくことにつながります。
視唱・視奏	楽譜を見て歌う・演奏することです。 →演奏表現につなげる情報処理能力を高めます。

授業で扱う内容： クレ読み、複数のクレ変換読み、リズム付きクレ読み、スコアリーディング、伴奏付け、リズム練習、リズム聴音、楽器聴音、旋律聴音、複旋律聴音、和音聴音など

「選択ソルフェージュ基礎／応用」 *クラスは聴音の習熟度により前期・後期入れ替え

*（入れ替えは基礎・応用のクラス内で実施）

附属中学校3年生と音楽科1年の合同授業で、通称「合同ソルフェージュ」と呼ばれています。

聴音（書き取り）による習熟度別に、2学年を7つのクラスに分けて行っています。授業内容はグレードソルフェージュと似ています。G1～G4クラスの生徒は「基礎ソルフェージュ」、G5～G7クラス「応用ソルフェージュ」として、通知表の欄に評価が記載されます。通常の音楽室の他、月1回の割合で一人1台のクラビノーバが使用できる音楽室を使用します。

・専修音楽（レッスン）

専攻は週1回50分の個人レッスン、ピアノ専攻以外は副科ピアノのレッスンが週1回あります。一人ひとりに合ったきめ細やかなレッスンを心がけています。ピアノ専攻は附属中学校を含め12段階のグレード制を導入し、各自の得意分野を伸ばすシステムになっています。生徒は、好きな作曲家や作品をそれぞれの感性と理論の上に演奏しています。弦楽器・ピアノ専攻は、スケールやアルペジオなどの基礎を確かなものとするため、複数の教員によるトライアルを年に数回行います。

声楽・管楽器・打楽器専攻は生徒それぞれの身体の特徴や骨格を考慮しながら、負担の少ない発声法・奏法を取り入れ、一過性ではない将来を見据えたテクニックを身につけていきます。

・選択レッスン（受講者は学校からお声かけします）

選択レッスン基礎は、本校入学前に本格的なレッスンを受けたことがない生徒が対象となり、週1回の通常レッスンの他に、同じ担当教員のレッスンをさらに1時間受けることができます。

選択レッスン上級は、実技試験における成績上位者・コンクール上位入賞者が対象となり、週1回の通常レッスンの他に、希望する教員（国立音楽大学教員も可）のレッスンをさらに1時間受けることができます。

○実技試験について

前期（1、2年管打楽器専攻・1年作曲専攻を除く）および後期の年2回、実技試験が行われます。音楽科の生徒にとっては年間行事の中で一番大切な学事です。生徒はこの試験のために毎日努力を続け、教員の前で演奏する緊張感・達成感、時には挫折感を味わうこともあります。この3年間の経験が社会に出た時に大いに役立っています。

・バロックダンス

2年生の体育で行うダンスは、バロック時代のリズム、テンポ、舞踊形式に合わせて踊る授業です。リトミック専門の教員が、立ち姿から踊りのパターンまでを丁寧に教えています。生徒は苦労しながらも自主的に練習し、授業の最後に行う発表会で良い演技が出来るよう努力しています。

・鑑賞研究

2年生で行う鑑賞研究は、古典派・ロマン派のピアノ作品、弦管打楽器によるアンサンブル、声楽アンサンブルに分かれて行います。作曲家や作品の時代背景などを調べ、生徒たちが演奏し、それに対してディスカッションをしていく授業です。譜面に記載されている細かなところまで追究し、どのように演奏すれば作曲家の意図に限りなく近くことができるか、自分たちの感性と合わせて、活発な意見が飛び交っています。

・合唱（1・2年必修）

週2時間の授業では、各クラスや各学年に分かれ、一流の教員による熱気溢れる指導が行われています。合唱もアンサンブル。ここでも音高の音楽科ならではの団結力・チームワークが発揮され、本校において最も伝統のある演奏会「くにたち音楽会」で披露されます。またクラス単位で演奏する合唱祭では、お互いに意見を出し合い、指揮・ピアノ伴奏も自分たちで行います。生徒のみで作り上げた演奏には、毎年各クラスの個性が溢れています。

・合奏（オーケストラ）

弦管打楽器の生徒は、必修で週1回授業を受けます。合奏はアンサンブルの集大成であり、指揮者・弦楽器・管打楽器の教員のもと、年3回の演奏会を目標に行っています。70名~80名の合奏においては、仲間と合わせることの楽しさ、難しさ、達成感を味わうことが出来ます。団体活動という点においても社会勉強に大変役立っています。作曲専攻の生徒は、副科楽器（チェロ・コントラバス）での受講を希望することができます。

・演奏演習音楽理論（自由選択）

主に楽曲分析を通して、楽譜を正確に読み取る力を高めると同時に、作曲家の意図や時代背景、演奏についての探究や追究を行います。意見の交換やディスカッションをすることもあります。

楽曲分析は、作品全体の構造や調性・和声の流れ、特徴的な音型やリズムを確認することで、楽譜を立体的に読み取ることを目指します。最終的には自身の演奏につなげるような考え・方法をまとめます。音楽室は毎回一人1台のクラビノーバを使用できる音楽室を使用し、学んだことをその場で確かめることができる環境が用意されています。

5. 教育システム

(1) NOLTY スコラ手帳

各自の勉強やレッスン内容・次回までの目標・練習方法などを記録し、日常的に使用することで、日々の振り返りを行い計画的に学習することを目的としています。試験などの日程や範囲、いつまでに何を準備しておくかなども記入し、各自で工夫を重ねながら有効活用しています。

(2) 海外研修

2019年8月に希望した生徒たちが附属中学の生徒と共にカナダにて2週間の語学研修に行きました。語学学校での研修やホームステイ、キャンプや現地の方へのインタビュー企画など充実した時間を過ごしました。英語でコミュニケーションが取れた喜びや、異なる文化を受け入れる経験を通して大きく成長しました。2021年度は夏休みに、国内の留学生と校内で対面による短期文化交流を行う予定です。

(3) 留学制度

高校音楽科では姉妹校であるオーストリア・リンツ音楽高校へ3ヵ月間のターム留学を実施しています。毎年1名が参加することができ、これまでに5名が留学しています。慣れないドイツ語に苦戦しながらも、音楽漬けの充実した日々を送っています。

(4) 大学進学実績 (2020年度)

国立音楽大学 75名	他大学(音楽系) 10名	短期大学 1名
演奏・創作学科	東京藝術大学 1名	昭和女子大学 1名
声楽専修 14名	東京音楽大学 4名	
鍵盤楽器専修(ピアノ) 34名	桐朋学園大学 2名	
弦管打楽器専修 11名	洗足学園音楽大学 2名	
作曲専修 3名	東邦音楽大学 1名	
コンピュータ音楽専修 1名	他大学(一般) 6名	専門学校 2名
音楽文化教育学科	上智大学 1名	日本工学院 1名
音楽文化教育専攻	白百合女子大学 1名	渡辺ミュージカル芸術学院 1名
音楽療法専修 1名	桜美林大学 1名	その他(留学等) 7名
音楽教育専修 3名	跡見学園女子大学 1名	
音楽情報専修 2名	文化学園大学 2名	
幼児音楽教育専攻 6名		

6. 感性と知性を育む教育

(1) 様々な演奏会

春♪新入生歓迎演奏会 (国立音楽大学講堂)

実技試験成績優秀者の演奏・作品発表で新1年生を歓迎します。附属中学校との合同演奏会ですので、中学2、3年生の演奏も鑑賞します。オルガン専攻の生徒が演奏する年度は、音大講堂の正面に置かれているパイプオルガンの演奏を聞くことができます。

夏♪オーケストラ・ソリストコンサート (国立音楽大学講堂)

弦楽器、管楽器、打楽器の専攻生および作曲専攻生の合奏(オーケストラ)履修希望生による演奏会です。

実技試験で選ばれたソリストの生徒がオーケストラと共演します。演奏される作品は、聞き覚えのある作品から現代曲までさまざまです。編成には珍しい楽器が入ることがあり、一見楽器に見えないような面白い打楽器なども登場します。

また、演奏会のプログラムは生徒が中心となって作成します。作曲家やその作品について調べる他、演奏者としての考えを記すこともあります。東洋一の蔵書数を誇る国立音楽大学の図書館の資料を参考にすることもあります。

秋♪オーケストラ・定期演奏会 (国立音楽大学講堂)

合奏(オーケストラ)授業の成果発表とその鑑賞が目的です。オーケストラは管弦楽と訳されますが、この定期演奏会ではその管弦楽の他、吹奏楽による演奏もあります。吹奏楽では、吹奏楽のためのオリジナル作品や管弦楽作品を編曲したものを始め、NHK大河ドラマのテーマ曲などを演奏した年もあります。迫力ある演奏から、生徒の成長を感じる演奏会です。

冬♪くにたち音楽会《ソロ・アンサンブルの部・合唱の部》(国立音楽大学講堂)

学校創立以来、毎年12月中旬に授業の成果発表として開催しています。PTAが主催となり、保護者と教員が協力して運営しています。演奏会は2日間にわたり、附属中学校と合同で行われます。1日目のソロ・アンサンブルの部は、中学生は実技の成績上位者から選出されます。高校生はオーディション形式で選出されるので、学年の枠を超えて出演のチャンスがあります。独奏の他、室内楽の演奏もあります。当日は、演奏者が綴る「演奏の前に」と称したプログラムノートをプログラムと一緒に配布します。

2日目の合唱の部は、合唱の授業の集大成を披露する演奏会です。女子生徒は学年やクラス毎の合唱に、男子生徒は混声合唱に参加します。混声合唱には附属中学校の3年生男子生徒も参加します。

♪オーケストラ・トライアウトコンサート

普段の合奏(オーケストラ)授業は、生徒一人ひとりの練習の積み重ねの上に成り立っています。そして、他の楽器の音を聴きながら合わせる体験、その息遣いを学ぶ場を合奏の担当教員は大切にしています。楽器毎のアンサンブルとして、フルートアンサンブル、木管アンサンブル、サクソフーンアンサンブル、金管アンサンブル、打楽器アンサンブルと弦楽合奏、そして小編成のアンサンブルがあり、日々の練習の成果を披露します。演奏会で披露できるのは、トライアウトコンサートのオーディションに合格したアンサンブルです。

♪卒業演奏会（国立音楽大学講堂）

3年生の後期実技試験の成績優秀者の演奏・作品発表を音楽科の生徒全員で鑑賞します。

- ◎ 各クラス2名の演奏会委員と、ステージセッティングを手伝う男子生徒が教員と協力して演奏会の準備・運営を行っています。卒業演奏会は1、2年生の演奏会委員で運営します。
- ◎ 上記の活動を通して、演奏会やライブの企画、運営等に興味を持ち、マネージメントを学びのひとつとして進学先を考える生徒もいます。

演奏会の基本の衣装は、男子生徒は白ワイシャツに黒の上下・黒靴、女子生徒は半袖または長袖の白ブラウスに黒ロングスカート・黒靴です。打楽器専攻の女子生徒は、動きやすい黒パンツを着用することもあります。またオーケストラの演奏会では、出演者全員が上下黒で出演することもあります。

（2）芸術鑑賞（2020年度実績）

① サントリーホールとウィーン・フィルハーモニー管弦楽団が提供する青少年プログラム

このプログラムは演奏会の裏舞台、プロの演奏家たちの公開リハーサルを目の当たりにできる貴重な体験です。本番とはまた一味違う緊張感が漂うリハーサルの見学は大変勉強になります。生徒たちはこの機会を非常に楽しみにしています。

② オペラ鑑賞（新国立劇場・オペラパレス）

マチネ公演の歌劇を一般のお客様と共に鑑賞します。鑑賞・観劇にふさわしいマナーについて学び、事前学習では鑑賞する歌劇について勉強します。

オーケストラピットの演奏者や舞台の出演者には本校の卒業生も多く、プロとして活躍する先輩の姿、本物に触れる貴重な体験は感性を磨き、知性を育む場となっています。

（3）海外修学旅行

2020年度より修学旅行は海外（台湾）へ行く予定でしたが、新型コロナウイルスの影響により、実施を断念しました。台湾は本校と関わりの深い国の1つです。台湾はクラシックの水準が高く、多くの本校卒業生が多岐にわたる学校・団体等で指導をしています。特に、卒業生が指導にあたっている台南市大成国民中学オーケストラとは交流が深く、来日された際には本校生徒との合同演奏も行いました。演奏だけにとどまらず、台湾の歴史・文化に触れ、現地の方々とのコミュニケーションを取りながら交流をすることを目的としています。この経験を契機として、生徒たちが海外で演奏や発表を積極的に発信していくことを期待しています。

（4）カウンセラー

高校生は心身ともに大きく発達し、非常に多感な時期です。勉強のことだけでなく、健康面や友人関係など色々と悩みも多いものです。

本校にはカウンセラー室があり、臨床心理士・公認心理師の資格をもつ専任のスクールカウンセラーが在籍しています。生徒が心身ともに健康な状態で学業に取り組めるよう、心の相談とケアに応じています。

7. 学校生活

(1) 携帯電話・スマートフォンに関するルール

本校では、学校内での携帯電話・スマートフォンの使用を禁止しています。学校に入る前に電源を切り、施錠ができる個人ロッカーにて各自で保管するルールになっています。保護者の方から生徒本人へ緊急に連絡がある場合には、学校へご連絡いただくようお願いしています。

(2) ご家庭との連絡

保護者・生徒の皆様へ学校生活の中で緊急を要する事項について、迅速かつ正確に連絡するために緊急時のメール配信を導入しています。1家庭で3件までのメールアドレスを登録することができます。通信にかかわるセキュリティは、世界的に信頼のある、デジサート（旧ベリサイン）のSSLを利用しています。

【緊急時にメール配信する事項】

- ・ 学校行事における雨天中止や延期、時程変更等
- ・ 天災、交通災害、伝染性の疾患等による臨時休校、生徒を学校に留め置く場合等
- ・ 緊急を要する不審者情報
- ・ その他

(3) 学校安全について

生徒たちが安心して学校生活を送るために、本校では安全対策を強化しています。

- ① 警備員を配置して生徒の安全確保に努めています。また、保護者の皆様が校内にいらっしゃる場合には、保護者証の着用をお願いしております。
- ② 校内にはAED（自動体外式除細動器）を3台設置し、不慮の事故にも備えています。また、教職員を対象にAED講習・救命救急講習を定期的に行っています。
- ③ 全ての校舎で最新の耐震基準をクリアしています。
- ④ 非常時のために、全生徒分の非常食・飲料水・非常用生活用品を備蓄しています。
- ⑤ 大地震などの災害が発生した際には、私立学校の被災状況や生徒の安否情報を、ラジオで放送することになっています。パソコンやスマートフォンでも聴くことができます（ニッポン放送 AM1242/FM93）。
- ⑥ 東京の私立学校間では、登下校時の緊急避難校ネットワークがあります。登下校の時間帯に震災等が発生し、交通機関がストップして学校や自宅にたどり着けなくなった場合、近くの私立小中高校に避難することができます。水や食料・トイレなどを提供するほか、専用のWebシステムを使い、学校間で生徒の所在を伝達し合うことができます。電話がつながりにくい状況でも安心です。
- ⑦ 学校管理下における生徒の怪我や病気に備え、独立行政法人日本スポーツ振興センターと災害共済契約を結んでいます。

(4) 昼食

本校には学食はありませんが、お弁当を持参するほか、登校時に購入したり、学内の売店で購入したりする生徒もいます。学内の売店では、パンやおにぎりなどの軽食を購入することができます。また、事前注文が必要となりますが、お弁当を購入することもできます。お弁当は数種類の中から選ぶことができ、日替わりのお弁当もあります。注文したお弁当は、昼休みに3号館1階生徒ホールで受け取ることができます。数に限りはありますが、当日現金でお弁当等を購入することもできます。

(5) クラブ活動 (2021年5月現在・・・6月より新体制で始動)

クラブ活動への入部は強制ではありません。生徒の個性に応じた活動を通じて自主的精神を養い、学校生活の充実向上をはかることを目的として行っています。

文化系：合唱部☆・ブラスバンド部・オーケストラ部☆・オペラ研究部・茶道部・ジャズ部・

運動系：ダンス部・バスケットボール部☆・バドミントン部◎・フラメンコ同好会

[☆：普通科と合同で活動している部活 ◎：中学・普通科と合同で活動している部活]

(6) アフタースクール

コースや専攻を変えて引き続き本校・本学で学ぶことを希望する中学校・高校音楽科生徒、および実技レッスンを希望する高校普通科の生徒を対象に、課外でレッスンを行う制度です。指導には本校レッスン教員、経験豊富な本校推薦講師があたり、個々の生徒の特質や希望にそって良質で効率的なレッスンを実施します。

<対象>

中学

- ・文理コースの生徒で、音楽コースへの変更を希望する生徒
- ・音楽コースの生徒で、主楽器の変更を希望する生徒

高校普通科

- ・国立音楽大学音楽文化教育学科（音楽文化教育専攻の各専修、幼児音楽教育専攻）および演奏・創作学科（コンピュータ音楽専修）に内部推薦で進学を希望する生徒を主とします。

高校音楽科

- ・専攻の変更を希望する生徒

<指導スタッフ>

- ・本校レッスン教員または本校が推薦する講師

<高校音楽科生徒への内容>

- ・ピアノ、声楽、弦楽器、管楽器、作曲/ 他
- ・50分の個人レッスンで、月に2~3回（年間28回）
- ・平日放課後または土曜日に実施

<料金>

- ・月額¥8,400

8. 2022 年度 生徒募集要項 抜粋

【専攻科目】 ピアノ / 声楽 / 弦楽器 (ヴァイオリン・ヴィオラ・チェロ・コントラバス・ハープ[グランドハープのみ])
 管楽器 (フルート・オーボエ・クラリネット・サクソフォーン・ファゴット・ホルン・トランペット・
 トロンボーン・ユーフォニアム・チューバ) / 打楽器 / 作曲 / オルガン / 電子オルガン
 ※入学後、サクソフォーンのレッスンはアルトサクソフォーンで行います。

【推薦入試の受験方法】 下記の A, B, C より 1 つを選択。(いずれも調査書の評定は 5 段階 9 教科単純合計。B, C は要入試相談)

- A 実技型 調査書 27 以上。
- B 調査書併用型 調査書 29 以上。出願時に音楽指導者による「音楽推薦書」を提出。
- C 調査書重視型 調査書 36 以上。出願時に本人による「自己推薦文」を提出。

	推薦入試	一般入試	
		第 1 回	第 2 回
募集人数	約 30 名 (第 1 学年 男女)	約 30 名 (第 1 学年 男女 第 1・2 回合わせて)	
出願資格	2022 年 3 月に中学校卒業見込みの者 で、本校を第一志望とし、出身中学校 長の推薦がある者。ただし、評定「1」 がないこと。	2022 年 3 月に中学校卒業見込みの者を主としま す。 このうち本校が定める基準(5 段階 9 教科 36 以 上)を満たす者は併願優遇制度を利用する ことができます。(要入試相談)	
出願受付	1/15(土)～1/16(日)	1/25(火)～2/4(金)	1/25(火)～3/4(金)
出願書類	志願票、調査書、推薦書、 音楽推薦書(調査書併用型のみ)、 自己推薦文(調査書重視型のみ)	志願票、調査書、第一志望届(本校を第一志望 とする場合のみ)、3 級以上の実用英語技能検 定合格証明書(任意提出)	
入学検定料	26,000 円 (但し、2022 年度本校音楽科入学試験に複数回出願する場合は、2 回目からは 10,000)		
入学試験	1/22(土)	2/10(木)	3/8(火)
試験科目	A 実技型: 面接・作文・専攻実技・選択 実技(副科ピアノ・視唱または視奏・聴音) B 調査書併用型: 面接・作文 C 調査書重視型: 面接	国語・英語(英検 3 級以上を取得している場合「英 語」の筆記試験を免除)・ 専攻実技・選択実技(副科ピアノ・視唱または視奏・ 聴音)・面接	
当日の集合 持ち物	8:00 までは校舎内に入ることはできません。8:30 までに受付を済ませてください。 受験票・筆記用具・上履きを持参してください。		
試験時間	8:50～9:00 説明、9:00～9:50 作文、 10:10～専攻実技・選択実技・面接	8:50～9:00 説明、9:00～9:50 国語、 10:00～10:35 英語、 11:00～専攻実技・選択実技・面接	
合格発表	1/23(日) 11:00	2/10(木) 17:00	3/8(火) 17:00
入学手続	1/24(月) 17:00 まで	2/14(月) 17:00 まで	3/9(水) 17:00 まで
	一般入試における併願優遇制度使用の場合は公立高校一般入試(東京都「第一次募集・分割 前期」、神奈川県「共通選抜」、埼玉県「一般募集」等)合格発表の翌日まで(土・日除く)		

※実技試験の内容は「2022 年度音楽科入学試験(推薦・一般)専攻実技課題」をご覧ください。

9. 新型コロナウイルス感染症に対する取り組み

(1) 健康観察

生徒及びすべての教職員は平日の朝 8 時 30 分までに jmobile を使用し、朝の検温結果と体調報告を学校に送信します。毎日の送信結果を管理し、体調の変化を観察しています。また、登校し校内に入る前にも非接触型の機械で検温をしています。担任をはじめ教員は生徒の様子に目を向け、体調の変化がみられる場合は養護教諭と連携し、素早く対応ができるように心がけています。

(2) 消毒

昇降口や各教室前をはじめ、校内の約 80 箇所に消毒液を設置しています。教員は放課後、HR 教室の机や椅子、手すりやドアなど生徒が触れる場所を消毒しています。教室以外の場所で授業を受けた時は、生徒自身が使用したものを消毒しています。直接消毒ができない備品を使用する時には、使用前後に手洗いと手指消毒をしています。また、階段やお手洗いなどの共用部は用務員が毎日清掃と消毒を行っています。

(3) 換気

密閉した空間を作らないように教室のドアを開けたり、外に続く窓を開けたりして空気を入れ替えています。外の空気によって室温が変化しやすい環境の中では、エアコンを使用して、熱中症などにならないように気をつけています。レッスン室のように一定時間ドアを閉じる場所では、常時換気システムを使用しています。そして、休み時間毎にドアを全開にして空気を入れ替えています。

(4) 飲食

昼食は教室内で、生徒全員が同じ方を向き、黙食をしています。マスクを外す時間が長くなる昼食時は各クラス教員が立ち会い、感染リスクを高めないように指導しています。水分補給の機会が増える体育の授業では、マスクを外すときには周りとは十分に距離をとり、会話をしないように教員が声掛けをしています。

(5) マスクの着用

生徒及びすべての教職員は基本的にはマスクを着用し、学校生活を送っています。マスク着用が困難になる管楽器や声楽のレッスンでは、指導者と生徒の間にパーティションを設置しています。同じようにオーケストラの授業においても管楽器の生徒と生徒の間にパーティションを置いて授業を行っています。

(6) 時短・オンライン授業

感染状況に応じて時短やオンラインで授業を行っています。初めて緊急事態宣言が発出された 2020 年 4～5 月には各家庭に教科書と課題を発送し、電話で生活の様子を聞いたり、健康観察を行ったりしました。6 月には分散登校を実施し、7 月からは時短授業を行い、学習を進めました。オンラインを活用し始めた頃は HR での使い方を練習し、少し慣れてきた頃からは教科の授業を行いました。慣れないパソコン画面での作業になるため、生徒の身体に負担がかからないよう、授業時間や方法を工夫しました。現在は、Google Classroom や Google Meet を中心に活用しています。教員から生徒への課題や授業動画の一方的な配信だけでなく、Google Meet を使ったリアルタイムでの双方向授業や生徒の課題提出など双方向でオンラインシステムを利用しています。入学後、生徒には使用機器やシステムの使用方法を丁寧に指導しますのでご安心ください。また、学年や教科の特性に合わせて効果的にオンラインシステムを利用できるよう、教員は研鑽

を積んでいます。

時短授業を行う場合は、1日の時間数は変えずに授業時間を短縮して行います。社会状況に応じて、部活動は停止したり、短縮（週2日、1時間ずつ）したりしています。